

陸災防秋田第5号

平成29年4月5日

会 員 様

陸上貨物運送事業労働災害防止協

秋田県支部長 赤 上 信



陸上貨物運送事業における安全対策の推進について

～荷役5大災害の防止対策の徹底～

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、今般標記につきまして、秋田労働局より別紙のとおり通知がありましたのでお知らせいたします。

会員の皆様におかれましては、下記冊子及び別紙チェックリストを活用するなど、引き続き労働災害防止に努められますようお願い申し上げます。

謹白

記

参考資料

「陸上貨物運送事業における重大な労働災害を防ぐためには」 (PDFファイル)

ダウンロード先

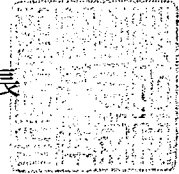
https://www.jniosh.go.jp/publication/houkoku/loading_201610.pdf

以上

秋労基発 0330 第 3 号
平成 29 年 3 月 30 日

陸上貨物運送事業労働災害防止協会
秋田県支部長 殿

秋田労働局労働基準部長



陸上貨物運送事業における荷役作業の安全対策の推進について（協力要請）
～荷役 5 大災害の防止対策の徹底～

陸上貨物運送事業（以下「陸運業」という。）における労働災害防止対策については、平成 25 年度から平成 29 年度を計画期間とする第 12 次労働災害防止計画において、平成 29 年の休業 4 日以上労働災害発生件数を平成 24 年に比して 10%以上減少させることを目標として推進しているところですが、管内の平成 28 年 12 月末速報値を見ますと、平成 24 年の発生件数に対して 16.2%の増加となっており、目標の達成は、今後相当の努力をしなければ極めて困難な状況となっています。

今般、独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所における調査等により、陸運業の荷役作業における死亡労働災害では、別添パンフレットのとおり、①墜落・転落、②荷崩れ、③フォークリフト使用時の事故、④無人暴走及び⑤トラック後退時の事故（以下「荷役 5 大災害」という。）が約 80%を占めること、保護帽の着用等荷役ガイドラインに示されている基本的な措置事項が実施されていないことが明らかとなったところです。

については、荷役 5 大災害を防止するため、荷役ガイドラインに示す事項等のうち、陸運事業者及び荷主等が特に重点的に確認・実施する事項を別紙チェックリストに取りまとめましたので、傘下関係事業者等に周知・徹底について特段のご配慮をお願いいたします。



荷役5大災害防止対策チェックリスト

(陸運事業者用)

チェック欄記入方法 ○：実施している △：一部実施している ×：実施していない -：該当なし

災害の種類	チェック項目	チェック (○、△、 ×の記入)	改善方針等 (問題点とそれに対する改善方針、実施時期等を具体的に明記してください)
共通事項	保護帽の着用	最大積載量が5トン以上のトラックの荷役作業においては必ず保護帽を着用させていますか。 ----- 上記以外の場合の荷役作業においても保護帽の着用させていますか。	
	耐滑性のあ る靴の着用	雨天時等滑りやすい状態で作業を行う場合には、耐滑性のある靴(Fマーク)を使用させていますか。	
墜落・転落災 害	作業計画の 作成等	作業計画、作業手順書を作成し、複数の作業場で荷役作業を行う場合は、作業指揮者を配置していますか。	
	作業床等の 使用	荷台の上での作業については、あおりに取り付ける簡易作業床や移動式プラットフォーム等を使用するなどし、荷台のあおりに乗っての作業を避けさせていますか。	
	昇降設備の 使用	荷台への昇降設備を用意し、最大積載量が5t以上のトラックの荷台への昇降は、昇降設備を使用させていますか。 ----- 最大積載量が5t未満のトラックの荷台への昇降についても、昇降設備(踏み台等の簡易なものでもよい。)を使用させていますか。	
	荷や荷台の上で作業を行う場合は、荷台端付近で背を荷台外側に向けないようにし、後ずさりさせないようにしていますか。不安定な荷の上では移動させないようにしていますか(一度地面に降りて移動すること。)		

	安全帯の使 用	安全帯を取り付けの設備がある場合は、安全帯を使用させていますか。		
荷崩れ	作業計画の 作成等	作業計画、作業手順書を作成し、複数の作業場で荷役作業を行う場合は、作業指揮者を配置していますか。		
	適切な荷付 けの実施	積付けの際、積みおろしを行う労働者が安全に積みおろしができるよう配慮した積付けを行い、適切な固定・固縛を行わせていますか。		
	走行中の荷 への配慮	荷崩れに繋がりがりやすい荒い運転（急制動、急発進、急旋回等）をさせないようにしていますか。トラックで輸送中、適宜停車時に積荷の固定・固縛方法を点検させていますか。		
	荷下ろし時 の配慮	ロープ解きの作業、シート外しの作業、荷台のあおりやウイングを動かす場合、荷室扉を開ける場合は、荷台上の荷の落下の危険がないことを確認した後に行わせますか。		
	教育の実施	荷の固定・固縛方法に係る教育を実施していますか。		
フォークリ フト使用時	作業計画の 作成等	作業計画、作業手順書を作成し、複数の作業場で荷役作業を行う場合は、作業指揮者を配置していますか。		
	適切な資格 者による運 転	フォークリフトの運転は、最大荷重に合った資格を有している労働者に行わせますか。 フォークリフトの操作に慣れていない場合は、一定期間は指導者の指導の下で作業を行わせますか。		
	用途外使用 の禁止	フォークリフトの用途外使用（人の昇降等）、運転席からの身の乗り出し等の危険な行為をさせないようにしていますか。		
	安全な運転	停止、急旋回を行わせないこと。バック走行時には、後方（進行方向）確認を徹底させていますか。		
	走行場所の 区分	自社の施設内にあつては、フォークリフトの走行場所と歩行通路を区分していますか。		

無人暴走	トラックの停車、ドライバーの降車、トラック内での待機について、作業手順を定めていますか。		
逸走防止措置の実施	降車時には必ず逸走防止措置（①パーキングブレーキ→②エンジン停止→③ギアロック→④輪止めの4点セット）を実施させていますか。		
逸走時の措置	万一、トラックが動き出したときは、止めようとしたり、運転席に乗り込もうとすることは厳禁とし、周囲への警告を発せさせるようにしていますか。		
降雪・凍結時の配慮	降雪・凍結した坂道（わずかな傾斜も含む）では、原則として停車させないようにしていますか。		
トラック後退時	トラックの後方の状況が十分確認できない場合は、トラックを後退させないようにしていますか。		
後退誘導による後退時の配慮	後退誘導担当者がいる場合、誘導担当者が目視できる状態で後退を行い、声や笛などの音声のみで後退の可否を判断させないようにしていますか。		
後退警告音	原則として、後退警告音の音量は下げないようにしていますか。やむを得ず下げるときは、バックモニター等その他の安全対策を併用させるようにしていますか。		
誘導員の配置	自社の施設内においては、誘導員を配置し、トラックを安全に誘導させていますか。		
走行場所の区分	自社の施設内においては、トラックの走行場所と歩行通路を区分していますか。		

※ 上記の事項のほか、荷役作業時に陸運事業者が実施すべき総合的な実施事項が、「陸上貨物運送事業における荷役作業の安全対策ガイドライン」に定められています。本ガイドラインに基づき一層の取組をお願いします。詳しくは、以下HPを参照されるか、最寄りの労働局、労働基準監督署にお尋ね下さい。

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/dl/131017.pdf>